



Title	香水と悪臭
Author(s)	向井, 夏彦
Citation	makoto. 1973, 4, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86267
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

香水と悪臭

(財) 大阪防疫協会 中央出張所

向井夏彦

香水と云えば誰でも知っているがさて、本場フランスの香水がどの様にして造られているかはほとんどの人が知っていない。朝まだ暗いうちより娘が、かごを持って花畑へ行き、夜露にぬれた、開いたばかりの花を選びながら摘みとって、工場に持ち帰って来る。工場では蠟(ろう)を薄く塗りつめた枠(わく)つきの板の上に、その花を一つ一つ下に向け、丹念に並べて、糊(たな)にしまいこんでゆく。馥郁(ふくい)たる花の香りが、蠟に移る間、まる一日経ってから、その蠟をかき集め、アルコール様の溶剤と共に、容器に入れて分溜をくりかえして、やっとなさばかりの香水が出来上ると云う事である。開いたばかりの花を朝早くから摘みとり、多くの手間と、時間をかけて、出来上った香水そのものは、僅かだとすれば、成程高いのは当たり前である。話はこれだけだがこのあとがある。

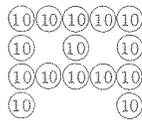
阪でも一、二を競うある中華料理店のマスターだが、開店早々はなにもなかった店の中が、年数がたつ毎に、だんだんとむせた様なきらいな臭(にお)いがたちこめてくるので調理人の後始末や、従業員掃除が悪い為と思いやかましく何度も注意をし、又自分から率先して手入れをしたが、一向に臭いの方は消えるどころか増して来るばかり困り抜いて、脱臭剤を店中においてみたり、芳香剤と取り替えてたりして、その場をごまかしていた。たまたまヨーロッパ旅行の途中フランスの香水造りを見学して「ハタ」と思いついた。花を蠟の上に伏せて、香りを蠟に移らせた。他にも材料がありそうなものだが?

彼等も色々試みた結果、一番蠟状の物がよかったに違いない。さすれば蠟状(油状)の物と香りは大いに関係がありそうだが。自分の店も中華料理店。大いに油を使う。いつとはなしに調理中の油や客室の煙が店中にたなびいて、天井や壁等に膜の様についてしまっているのではないか? 日本に帰った彼はその足で直接店に行き調理室に飛び込んだ。天井や隅々のタイルが油と煙りで赤茶けている。「コレダッ」早速従業員と共に熱湯を沸かし、まる一日かかって店中を天井と言わず、壁と言わずふき回った。翌日期待に胸おどらせながら店の中に入って行った彼は全神経を鼻に集中して嗅いで見た。まるで嘘(うそ)の様にあの嫌な臭いは消えてしまい、替りの臭いは開店当時のなつかしい思い出をよみがえらせた程であった。この話を聞いて成程この人の今日あるのは当然の事だ。いついかなる時でも自分の仕事を頭におき、少しでも改良の点はないか? 業種は違っても自分の仕事に応用をしてとり入れられないかと絶えず考え、又思いついたら即(そく)、実行に移る積極性だと深く頭の下がる思いがした次第です。

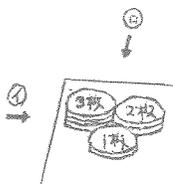
私は家に帰るなり家内にも話をして、早速台所の拭き掃除はもちろん、換気扇まで分解して、家内ともども綺麗(きれい)にしてみました。台所特有の臭いも無くなり、本当に気持ちの良いものです。それ以来は三ヶ月毎に我が家の油取り(換気扇と天井ふき)は続けられています。皆さんも一度試して見られてはいかがですか。又我々衛生関係の仕事にたずさわっている者にとっては飲食店や料理屋等に出入する機会が多いので大いに広めてみようではありませんか。

図形パズル解答

(一) どう考えても「円」の形になるわけがない。とすれば頭を早く切り換えて、「円」と云う字にするしか方法がないでしょう。



(二) 図のように一枚、二枚、三枚の山が密着している。①から見れば4枚、②から見れば5枚に見えます。



編集後記

季節の移り変わることは、何につけても感慨深いものです。今年は何十年振りといわれた水不足と、記録的な暑い夏であっただけに、吹く風にも一層秋のさわやかさを覚えます。

公害をはじめ、インフレ、有害食品、争い、殺人……などなど、とかく憤りや嘆きをもたらす落着かない世の中ですが、人間自身が生み出す不幸は、人間自身の正しい道を歩む努力次第で、これをなくすことができると、この認識にたてば、多くの不幸は避けられるのではないのでしょうか(?)。

せめて暮しの中に明るいユーモアをとり入れ、お互に、いたわりの心を忘れないようにしてゆきたいものです。

まこと 御愛読のかたがたより温かいお便りをいただき、編集するにも一段と勇気づけられ、頭張りの気持がわいてきます。

御投稿の皆様がたには厚く御礼申し上げます。

(喜多)